

派遣先地域医療拠点病院名	熊本労災病院
氏名	具嶋亮介
診療科名	消化器内科
事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

### 1. 本寄附講座事業における状況・成果概要

熊本労災病院は八代圏の救急医療の中心で、救急疾患の患者が多い。消化器内科の医員も十分ではなく、我々が内視鏡検査のサポートと、若手医師の内視鏡治療の指導を主に行っている。

### 2. 診療支援の取り組み及び成果（データに基づく）

外来診療のサポートは行っていないが、データの通り外来患者数は増加傾向で、それに伴い内視鏡検査や治療も増加することが予想され、診療支援の成果は出ていると思われる。

### 3. 派遣診療科におけるメディカルネットワーク普及状況（データに基づく）

KMNの文章の送受信の数は県内の病院でも多い。ただ画像の連携がシステムの問題かうまくいっておらず、その点が今後のシステム改善として要望したい部分である。

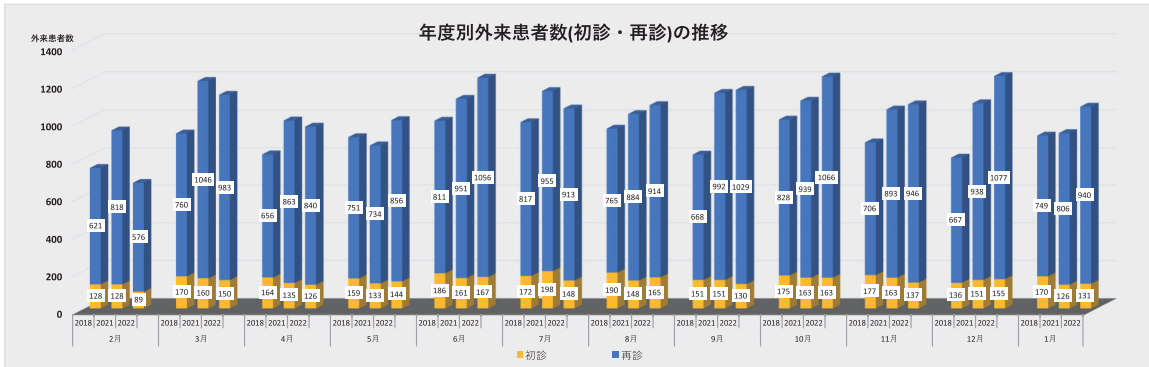
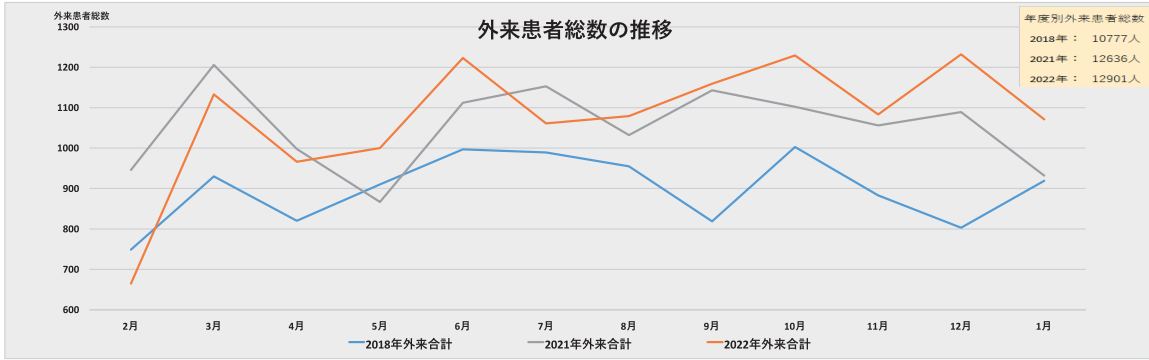
### 4. 地域医療拠点病院としての役割の推進状況

熊本労災病院は八代だけでなく、水俣や宇城の医療圏からの患者も対応しており、地域医療拠点病院として重要な役割を担っている。特にコロナ禍では各病院がなかなか救急患者の受け入れが難しい中で、八代近隣地域の救急疾患の受け入れも積極的に行い、その役割を十分に果たしている。

### 5. 地域医療における今後の課題・解決策等

救急疾患の多い消化器内科としては、医師数が十分とは言えず、今後は医師の働き方改革も始まり、より人材の確保が必要になる。医師数の増加が望ましいが、医局員を派遣するほどの余裕が医局にはなく、現状のように診療や検査のサポートを続けていくしか手段がない。解決策はなかなかないのが現状である。

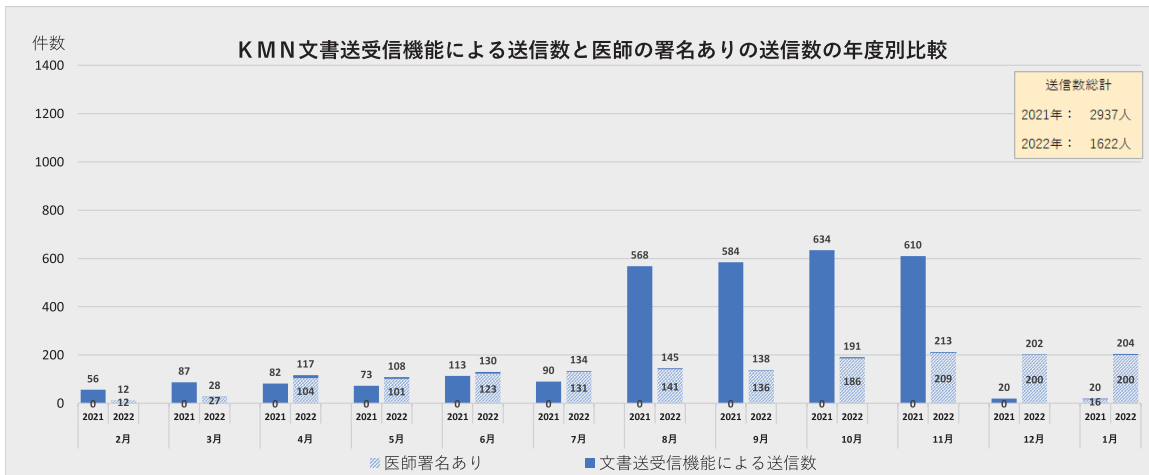
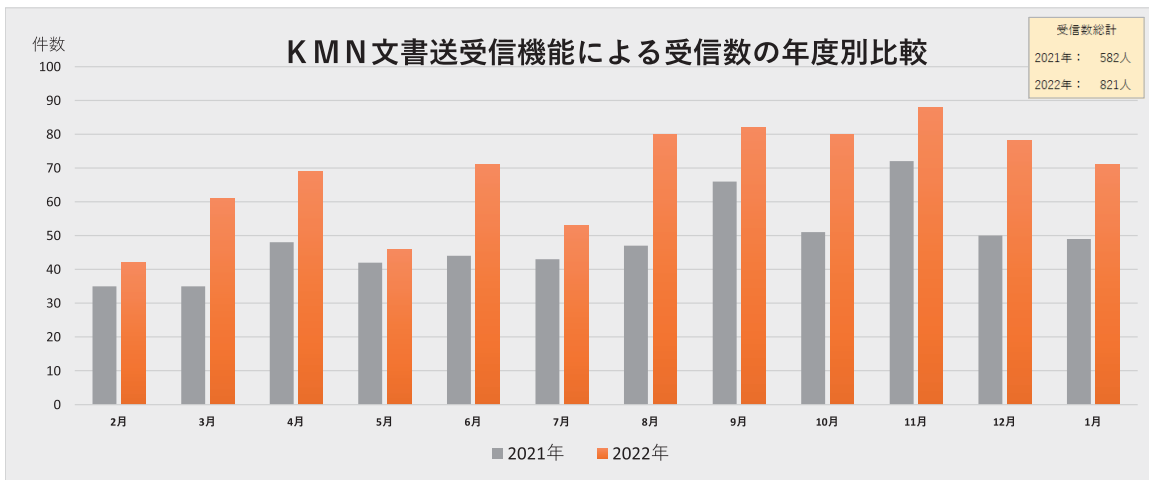
## 熊本労災病院 消化器内科



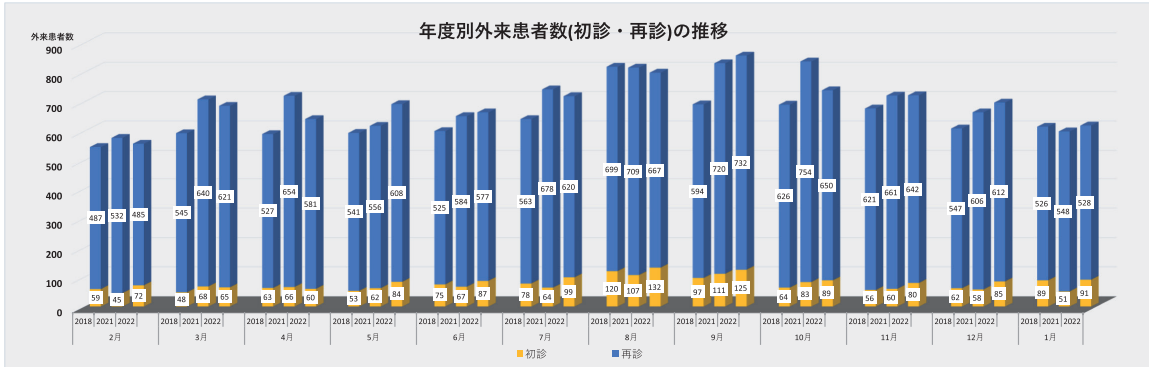
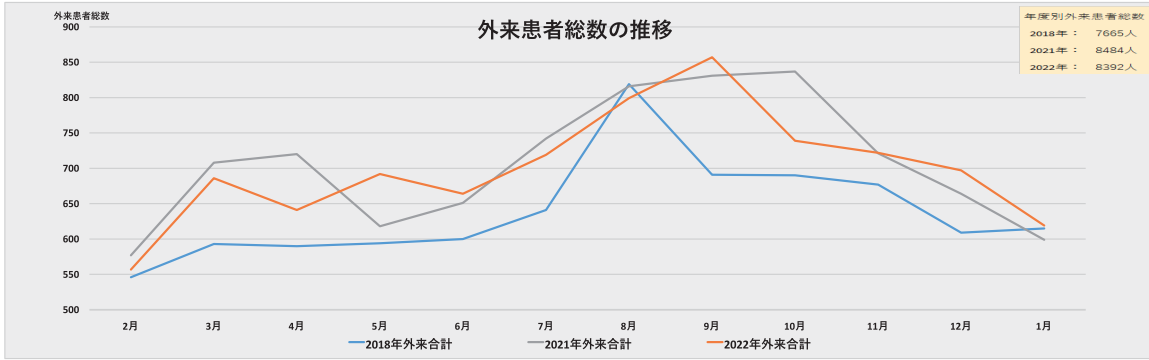
### 新規参加者数総計

2021年：168人

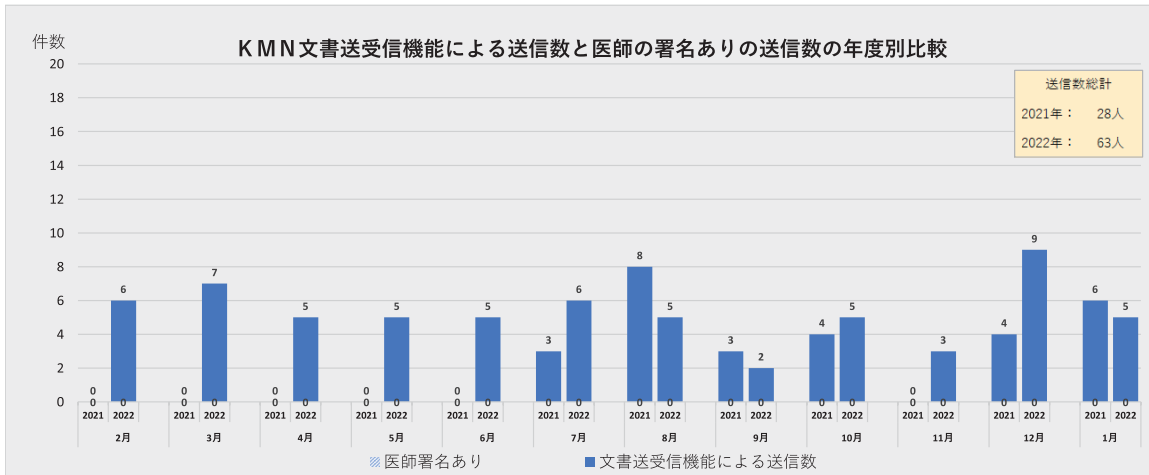
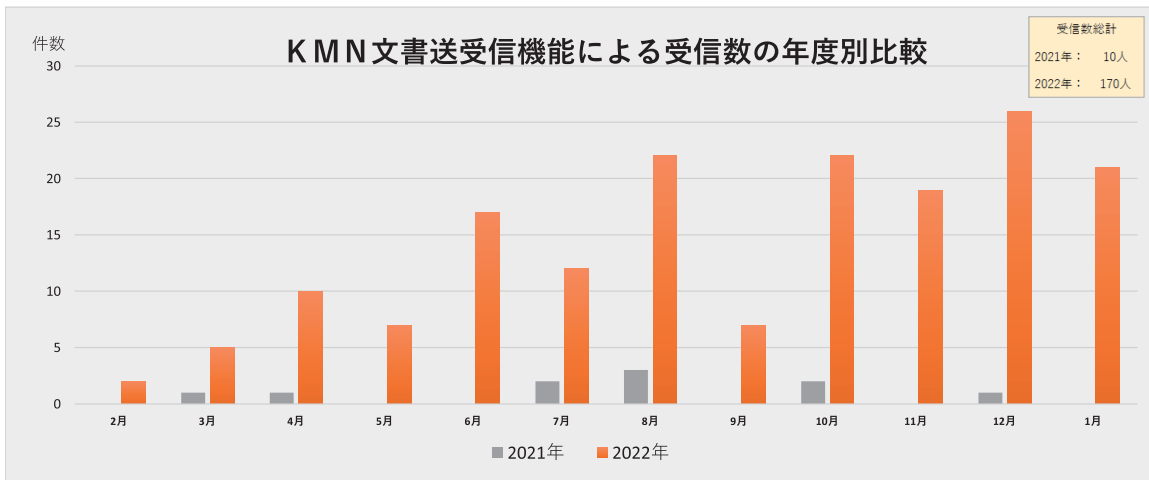
2022年：203人



## 山鹿市民医療センター 消化器内科



**新規参加者数総計**  
2021年：33人  
2022年：518人



派遣先地域医療拠点病院名	令和4年4月1日～令和5年3月31日
氏名	血液・膠原病・感染症内科
診療科名	坂田康明
事業期間	熊本総合病院、熊本労災病院

## 1. 本寄附講座事業における状況・成果概要

地域連携ネットワーク推進として、八代地域の2基幹病院において外来診療業務及びKMNネットワークの普及に努めた。外来患者数やKMNネットワークの利用件数の増加に加えて、地域の医師の先生方との研究会を行い交流を深め、県南地区の膠原病診療の充実を図ることができた。

## 2. 診療支援の取り組み及び成果（データに基づく）

八代地域の膠原病専門領域の診療支援として、熊本総合病院及び熊本労災病院に月2回ずつ外来診療を行なった。2022年度血液・膠原病内科の外来患者数は、熊本総合病院においては9133人（前年比+1038人）、熊本労災病院においては3829人（前年比-299人）であった。

膠原病外来については熊本市内には複数拠点があるが、県南地域には専門医が不足しており、八代地域のみでなく人吉、芦北、水俣地域の患者層を含めカバーしている。

## 3. 派遣診療科におけるメディカルネットワーク普及状況（データに基づく）

2022年度の熊本総合病院における新規参加者数は105人と前年と同程度で、KMNを通じた受信数 567件（前年比 +91件）、送信数71件（前年比 +52件）と利用状況の増加が見られており、今後さらなる利用普及が期待できると考えられる。

熊本労災病院においては、新規参加者数203人と増加しており、受信数821件（前年比 +239件）、送信数1622件（前年比 -1315件）であり、こちらは前年同様の高い利用実績を認めている。

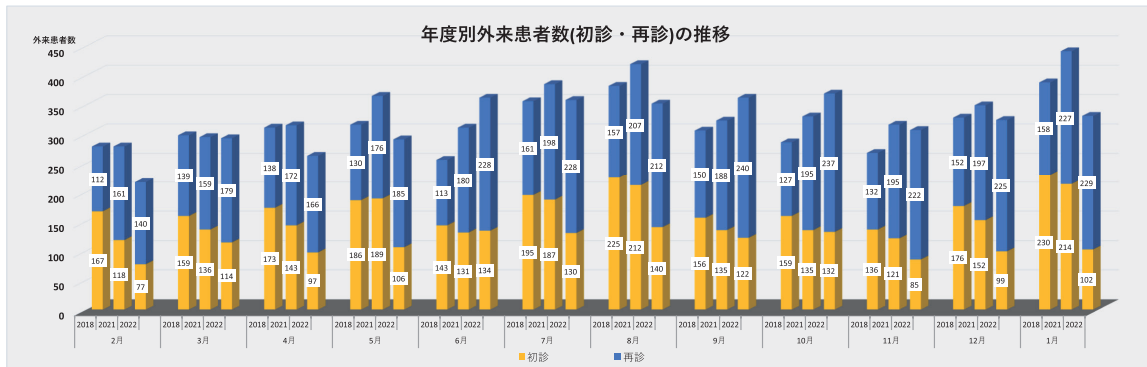
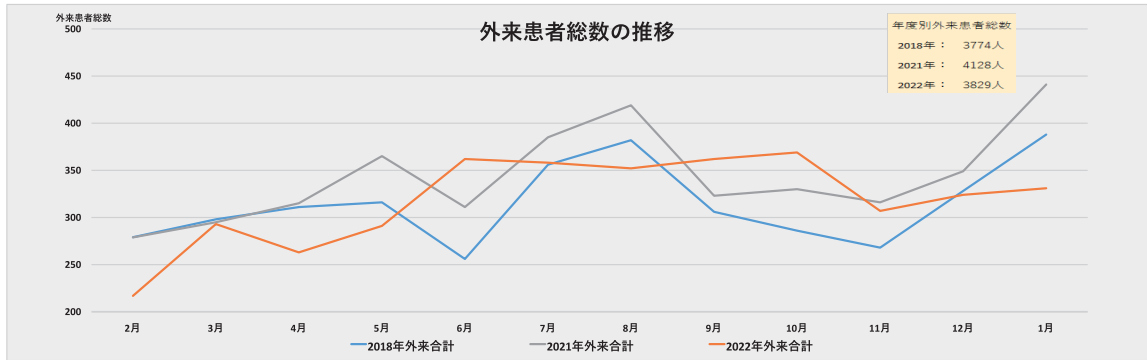
## 4. 地域医療拠点病院としての役割の推進状況

地域医療拠点病院として、地域の病院や診療所等からの紹介を受け、医学的対応と専門的情報の共有を行っている。同院に学ぶ研修医や医学生が当科外来の見学を行うこともあり、指導を行っている。膠原病疾患は他領域にわたるため、県南医師を対象とした交流会として、県南の皮膚科や整形外科を交えた講演会にも参加し、情報共有と交流を行った。多彩な症状を呈する膠原病疾患であるからこそ診療科の垣根を超えた協力が必要であり、県南で膠原病診療が完結できるような仕組み作りに取り組んでいる。

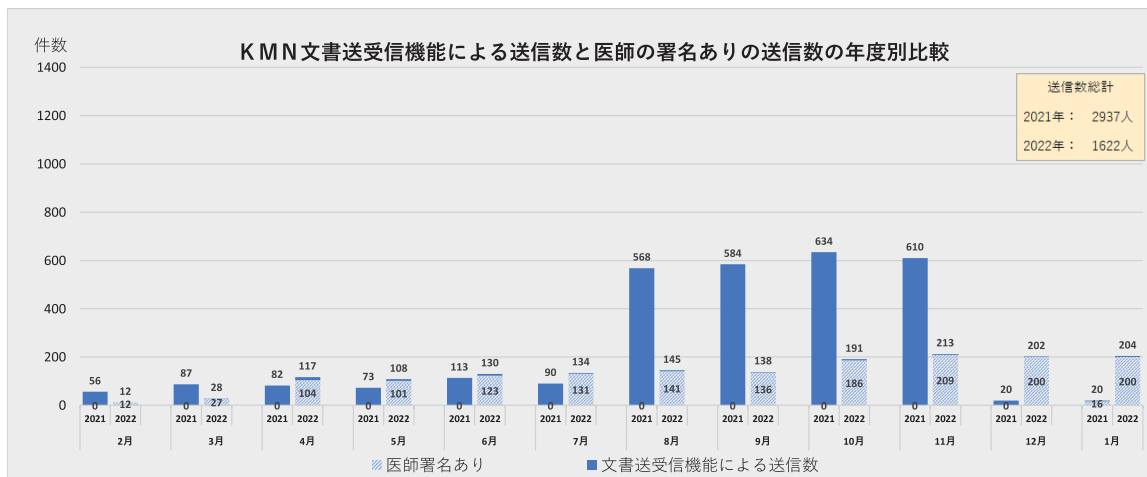
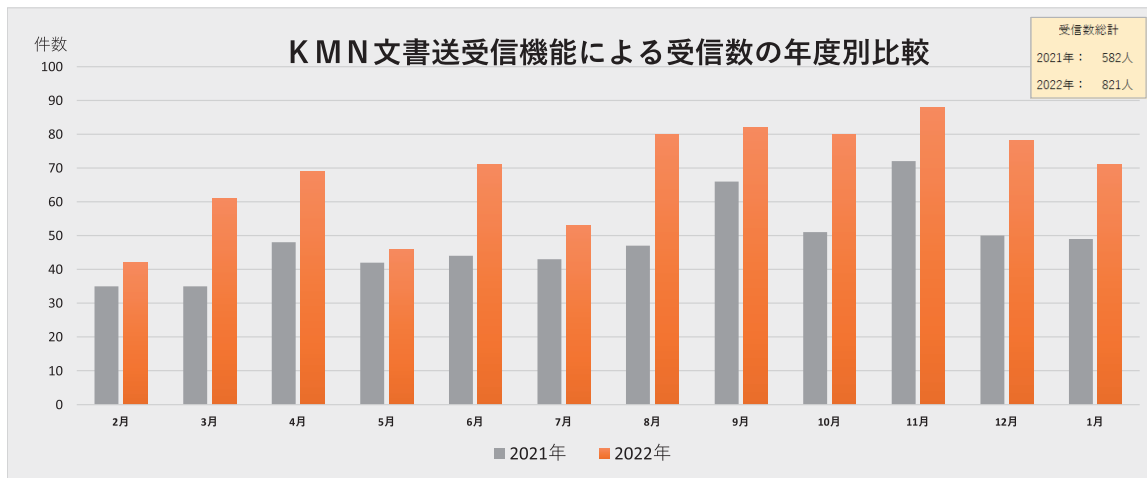
## 5. 地域医療における今後の課題・解決策等

膠原病は慢性の自己免疫疾患であり、発症した後は完治することはないため長期の維持療法が必要である。そのため一外来に通院する患者は増えていく傾向にあり、定期の診療時間でこなすには厳しくなりつつあり、比較的安定している患者は近くの診療所などへフォローを依頼する必要があるが、紹介先として十分な診療経験を有し受け入れ可能な医療機関が多くはない。また近年膠原病領域においては新規薬剤が多数承認され治療方針なども見直されつつあるが、それらの情報が十分に行き渡らず、不十分な治療のままで紹介が遅れるケースなども見られる。今後、交流を増やしていく中で垣根の低い協力体制を確立していく必要がある。

## 熊本労災病院 血液内科・膠原病内科



新規参加者数総計  
2021年：168人  
2022年：203人



地域医療連携ネットワーク実践学術附講座

派遣先地域医療拠点病院名	小国公立病院
氏名	小野 薫
診療科名	糖尿病・代謝・内分泌内科
事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

## 1. 本寄附講座事業における状況・成果概要

週1回、午前・午後で外来業務を行っている。健診で耐糖能異常を指摘された者や、近隣開業医では血糖コントロールが難しい患者、インスリン療法の導入を目的とした患者などが受診するようになり、専門性が高まった結果、現在はほぼ糖尿病患者のみの外来となっている。患者数は増加傾向にあり、高齢化を理由に、熊本市、大分県日田市の医療機関からの紹介されてくる患者も増えている。

糖尿病合併症として、網膜症に関しては、同院眼科や阿蘇地域の眼科医と連携している。また糖尿病性腎症に対しては阿蘇医療センター腎臓内科と連携し診療にあたっているが、地理的な点から日田市の医療機関への紹介もある。

月に1回、小国郷糖尿病対策チームブルーの定例会に参加している。病院スタッフや、小国圏域の保健師で構成された糖尿病対策チームであり、毎月40名ほどの患者について受診状況、生活状況や保健指導の内容などの情報を共有し、糖尿病合併症予防につなげている。会議の際に、糖尿病の薬物療法や合併症について一般的な知識、最近の傾向、留意する点などのアドバイスを行っている。

町民などに対する啓蒙活動は、新型コロナウイルス感染症の蔓延から進んでおらず、院内勉強会なども行っていない。

## 2. 診療支援の取り組み及び成果（データに基づく）

外来全体の数はここ数年横ばいである。代謝内科としての診療枠はなく、総合診療科の枠で他の医師と診療にあたっているため、数字の把握が困難であるが、担当する外来患者数は増えている。専門性が増した結果、糖尿病教育を主目的とした大学病院への紹介も増えた。

糖尿病に関しては、研修医が初期対応した患者や、治療に難渋している患者などについて主治医から相談いただき、適宜診察・アドバイスを行っている。

## 3. 派遣診療科におけるメディカルネットワーク普及状況（データに基づく）

KMNの利用は病院全体としても明らかに少ない。派遣医師の努力不足、また病院としても周知されていないのが現状ではないかと思う。診療情報提供書に関しては、KMNの送信作業は医師が行っている（システムエラーなのか、電子署名ができない）。送受信の数については、地理的に、日赤や市民病院、日田市の医療機関（済生会日田病院など）への紹介・逆紹介が多いことも一因と考える。今後、派遣医師から使用数を増やすよう努力する。

## 4. 地域医療拠点病院としての役割の推進状況

小国公立病院は県境にあることから、中核病院としての役割が大きいと思われるが、外来を見ていると総合内科的な側面が大きい印象で、中核病院と診療所の両方のニーズを担っているのではないかと思う。

担当する外来枠は週1回だが、患者数は増えるためマンパワーとしては心もとない。病診連携を積極的に行い、円滑な医療提供を行えるようにするのが課題と考えている。

## 5. 地域医療における今後の課題・解決策等

糖尿病は、一部を除けば、基本的に予防できる疾患である。しかし患者と話をすると、糖尿病に対する一般的な知識、理解に乏しい印象がある。地域住民が糖尿病の知識を得られるような活動をすることが、長期的に見て効果があるのではないかと考える。

派遣先地域医療拠点病院名	上天草総合病院
氏名	小野 薫
診療科名	糖尿病・代謝・内分泌内科
事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

## 1. 本寄附講座事業における状況・成果概要

毎月第3、5週の金曜日に午前、午後で外来業務に従事している。代謝内科常勤の岸川秀樹医師、熊本大学病院 糖尿病・代謝内分泌内科からの非常勤派遣も合わせて週3日の専門外来が行われている。長年、大学病院から代謝内科医師を派遣していたため、患者は一定数あったものの、近年は全国的な糖尿病患者の増加の影響か、患者数は増加傾向である。外来は2型糖尿病に加え、1型糖尿病、その他疾患による糖尿病(膵摘出後、肝硬変等)などがあり、一般外来に比べ専門性が高い。また内分泌科としても甲状腺疾患や下垂体、副腎疾患(特定疾患含む)など、多岐にわたる。専門医が中心に派遣されていることから、糖尿病に関してはある程度、同院内で完結していると思われる。内分泌疾患に関しては、精査加療が必要な状況であれば熊本大学病院への紹介となるが、治療後はおおむね逆紹介して頂いている。市民に対する啓蒙活動は、新型コロナウイルス感染症の蔓延から進んでおらず、院内勉強会なども非常勤医は行っていない。

## 2. 診療支援の取り組み及び成果（データに基づく）

外来のコマ数は増えていないものの外来患者数は増加傾向にある。1.で述べた通り、糖尿病に関しては、教育入院含め同院で完結できており、この点は評価できる点ではないかと考える。また糖尿病合併症に関しては同院の眼科、腎臓内科などと連携している。

## 3. 派遣診療科におけるメディカルネットワーク普及状況（データに基づく）

熊本大学病院や中核病院から頂く紹介状に関しては、KMNを介していただくことも増えてきた。グラフのように徐々に件数も増えている。

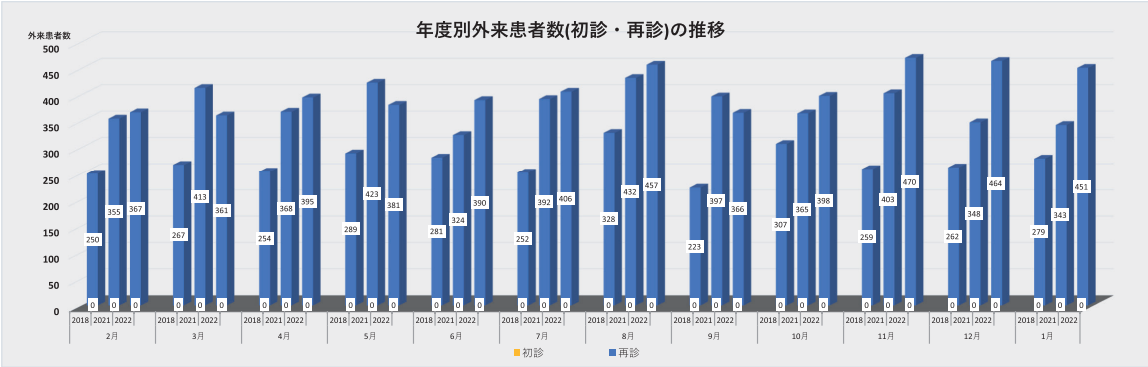
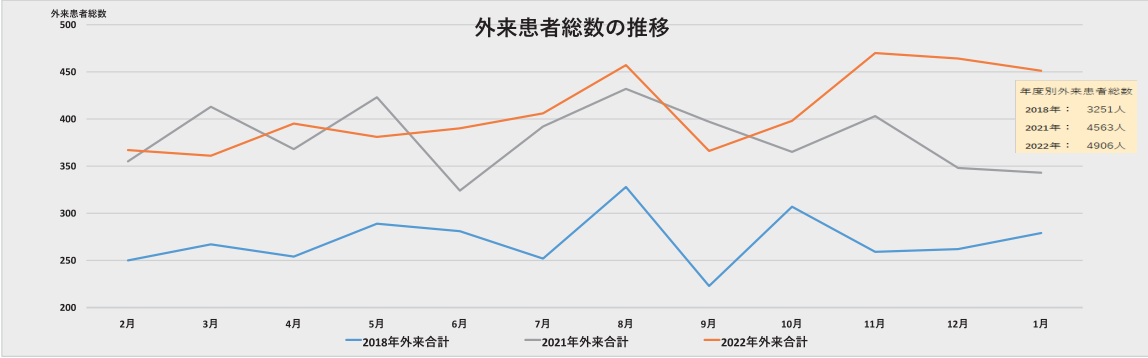
## 4. 地域医療拠点病院としての役割の推進状況

専門外来が週3日あるということで、患者にとっても近隣開業医の先生方にとっても安心感があると思われる。医療の均てん化の面からも、マンパワーがあるため、効果的だと感じている。また逆に、大学病院などへ紹介は、派遣医師が先に対応することで、ある程度の鑑別・検査が進み入院紹介がスムーズにいくことが多い。この点も意義があると感じている。

## 5. 地域医療における今後の課題・解決策等

近隣医療機関への糖尿病の啓蒙活動が不十分と考えている。多くの糖尿病薬が開発されて市場に出ることから、糖尿病治療の標準化を目指す意味でも、勉強会など情報提供が必要と考えている。またかかりつけ医作成にも難渋しているが、こちらの解決は難しいと思われる。

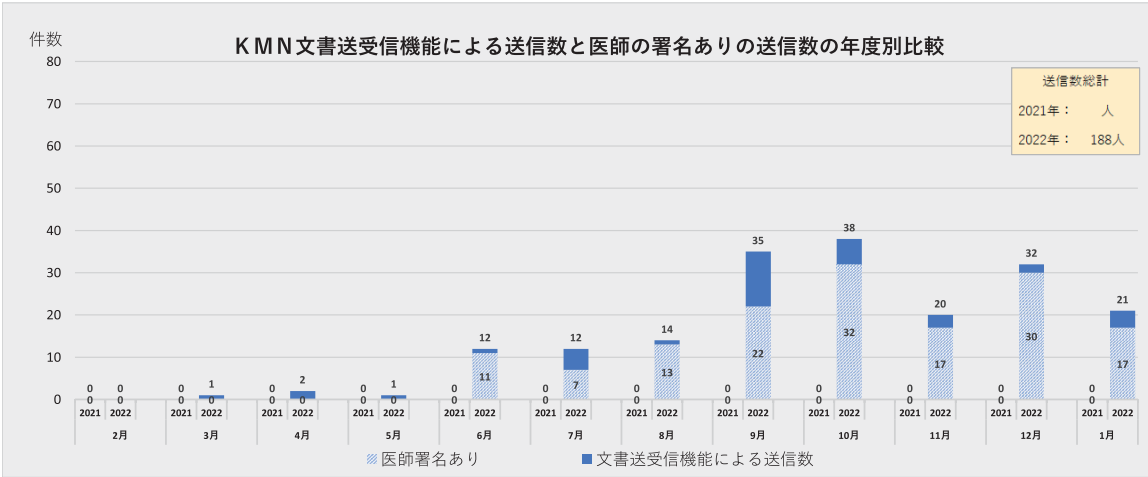
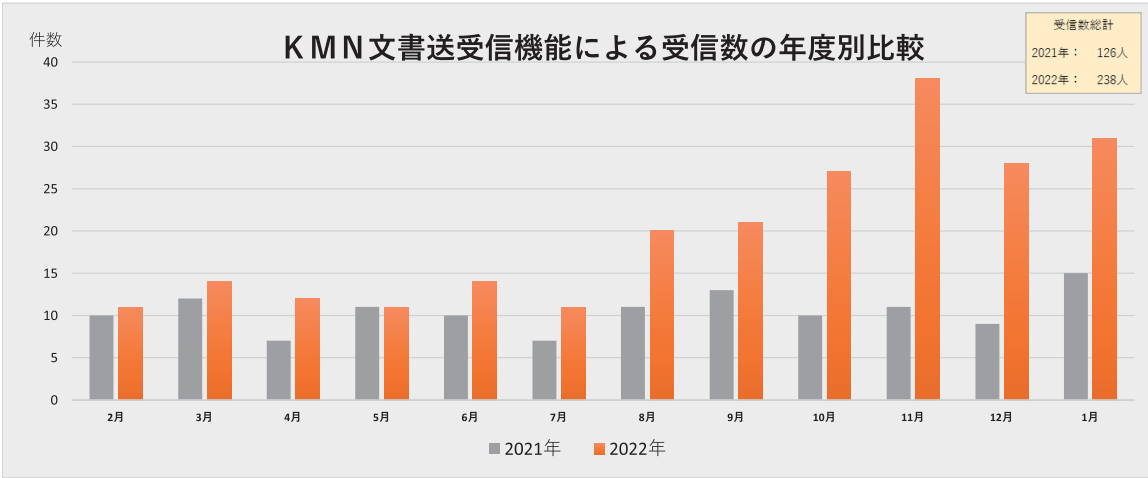
## 上天草総合病院 糖尿病・代謝・内分泌内科



**新規参加者数総計**

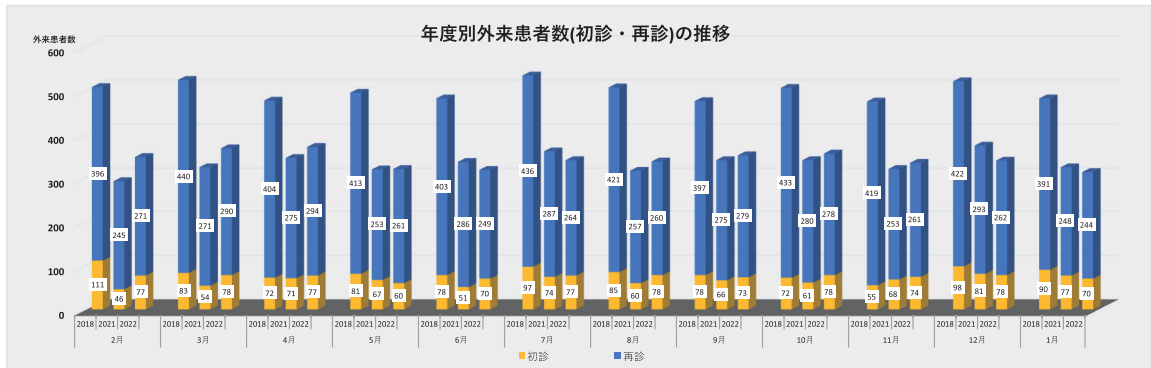
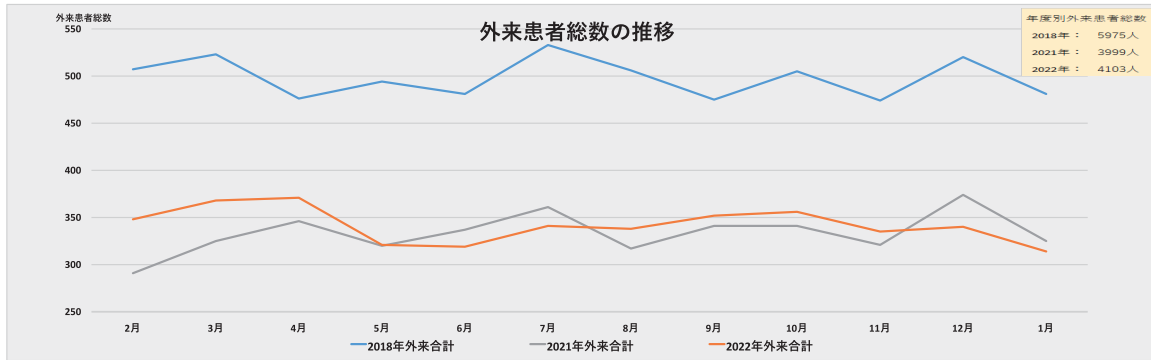
2021年： 人

2022年： 人

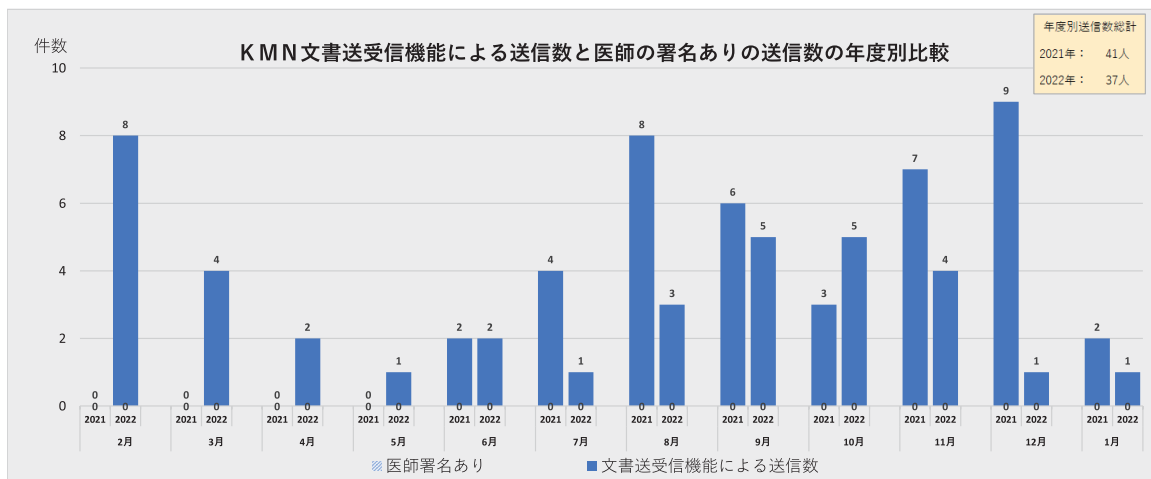
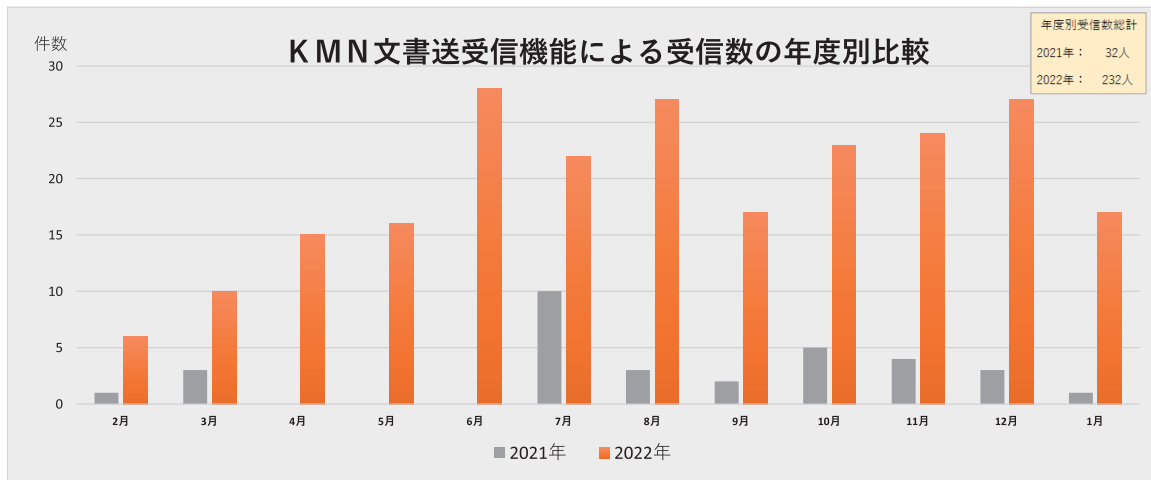




## くまもと県北病院 循環器内科



新規参加者数総計  
2021年： 181人  
2022年： 361人



地域医療連携ネットワーク実践学術附講座

派遣先地域医療拠点病院名	公立多良木病院
氏名	木山卓也
診療科名	循環器内科
事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

### 1. 本寄附講座事業における状況・成果概要

公立多良木病院の月曜日の循環器内科定期外来の支援を実施しております。

公立多良木病院の方針として、新患、再診に関わらずwalk inや救急搬送依頼のあった患者の受け入れは基本断らない為、毎週のように多くの外来患者の紹介を受けております。

### 2. 診療支援の取り組み及び成果（データに基づく）

外来患者、入院患者の総数に関しては2021年から2022年にかけて横ばいで明らかに目に見える増加は認めませんでした。

外来に関しては、やはり基本的にかなり高齢の患者様のフォローが多く、外来のブースは常に目一杯使用されている状態で、自身での平均外来患者数も20～30人で、そこに新患者様や場合によっては救急対応もそこに入ってくる状態です。新しく外来でフォローする患者様も増える一方、高齢による老衰をメインとして来院が難しくなるケースや死亡による外来患者の減少がある為、見かけ上は増加していないのではないかと推測しております。

入院患者に関しましても、病床使用率は高く、時折待機やコンサルトなどで病棟へ上がった際にも病床が空いている印象は受けておらず、こちらから外科へ手術依頼してもすぐに対応頂いております。しかし、入院している患者様もかなり高齢であること、また近隣に回復期の病床を持った病院が全くないことから、急性期から慢性期まで公立多良木病院で担っており一人当たりの入院期間が長くなっていることが入院の患者総数の増加がしない一因ではないかと考えられます。

### 3. 派遣診療科におけるメディカルネットワーク普及状況（データに基づく）

2021年から2022年にかけては、新規でのメディカルネットワーク患者の総数は減少していましたが、熊本メディカルネットワーク（以降KMN）文書送受信機能による受診者数については、2022年4月頃より増加し2021年と比較しても2倍以上の受診数となっております。（2021：215人→2022：455人）

また、KMN文書送受信機能による送信数についても3倍以上の送信数となっており（2021：115人→2022：350人）、年々 KMNによる地域連携ネットワークの構築が徐々に進行していている印象を受ける結果となっております。

### 4. 地域医療拠点病院としての役割の推進状況

当院で対応の難しい患者の対応を近隣の病院へ紹介する際にも、連携室を通せばすぐにKMNを通して送信できるシステムも構築できている印象であり、緊急の対応が必要な患者のスムーズな情報交換、受入や遠方の病院への患者の相談なども行いやすくなっております。

### 5. 地域医療における今後の課題・解決策等

公立多良木病院は様々な病院からの受託があり、未だに紙文書での紹介も依然数多くある為、より多くの病院へのKMNの周知や加入を勧めていこうと思います。

多良木地域における地域拠点病院として地域医療に貢献している公立多良木病院において、今後よりKMNの普及による地域医療連携ネットワークの波及を進めていきます。

派遣先地域医療拠点病院名	そよう病院
氏名	平川今日子
診療科名	循環器内科
事業期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

### 1. 本寄附講座事業における状況・成果概要

そよう病院で循環器内科医として週に1回の外来診療、月に2回の当直業務にあたっている。外来診療においては1日あたり15人程度の定期外来、さらに新患・コンサルト対応、また同院にはエコー技師がないため心エコーなどの業務にあたっている。

### 2. 診療支援の取り組み及び成果（データに基づく）

2022年度外来再診患者：1536人、初診：27人。昨年度と比較し横ばいの受診人数であった。

### 3. 派遣診療科におけるメディカルネットワーク普及状況（データに基づく）

KMN新規参加数総計：15人と昨年と比較して増加傾向であった。

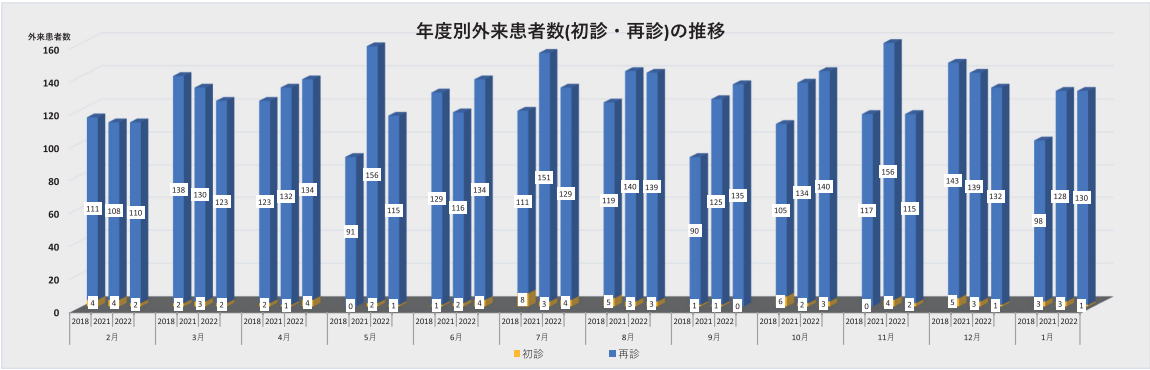
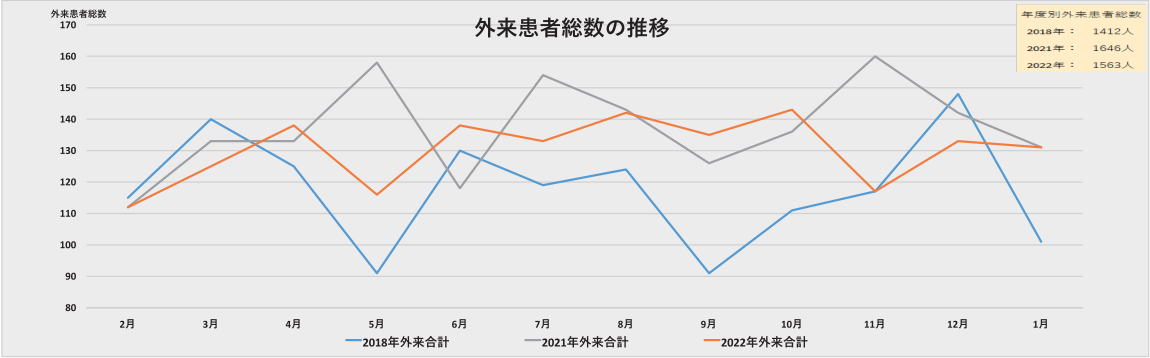
### 4. 地域医療拠点病院としての役割の推進状況

地域の拠点病院において、循環器の専門診療の維持が行えている。受診患者に対するKMNの情報発信を行い参加者が増加傾向となった。また夜間においても救急患者を積極的に受け入れることにより、重症患者においての三次救急拠点病院への搬送をより安全に施行することが可能であり、また軽症～中症患者においても地域完結型の医療の提供が可能となっている。

### 5. 地域医療における今後の課題・解決策等

KMN参加数は増えたものの文書送受信総数の増加には至っていない。そよう病院においては文書送受信を一括して行う部署がなく、多忙な外来診療中に送受信の手続きまで個々のDrで行うのは限界があり、他職種で取り組んでいく必要があると考えられた。

# そよう病院 循環器内科



**新規参加者数総計**  
2021年： 7人  
2022年： 15人

